

障害者総合支援法に基づく訪問介護事業所（移動支援）運営規程

（事業の目的）

第1条 社会福祉法人長久会が設置する指定訪問介護事業所（移動支援）白水長久苑（以下「事業所」という。）において実施する移動支援事業の適正な運営を確保するために人員及び管理運営に関する事項を定め、事業所の従業者が支給決定を受けた利用者及び障害児の保護者（以下「利用者等」という。）の意思及び人格を尊重し、利用者等の立場に立った適切な移動支援の提供を確保することを目的とする。

（運営の方針）

第2条 事業所は、利用者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、その利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、外出時における移動中の介護を適切かつ効果的に行うものとする。

- 2 移動支援の提供に当たっては、懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者等又はその家族に対し、サービスの提供方法等について理解しやすいように説明を行う。
- 3 移動支援の提供に当たっては、介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行う。
- 4 事業所の従業者は、利用者等の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ってサービスの提供を行う。
- 5 事業の実施に当たっては、地域や家庭との結びつきを重視し、関係市町村、他の障害福祉サービス事業者、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携に努める。
- 6 常に利用者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、利用者又はその家族に対し、適切な相談及び助言を行う。
- 7 前六項のほか、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号。以下「法」という。）及び「大分市障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例」（平成24年大分市条例第40号）に定める内容のほか関係法令等を遵守し、事業を実施するものとする。

（虐待防止に関する事項）

第3条 事業者は、利用者の人権の擁護・虐待の防止等のため、次の措置を講ずるものとする。

- （1）虐待防止に関する責任者を管理者とする
- （2）成年後見制度の利用支援
- （3）苦情解決体制の整備
- （4）従業者に対する虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施
- （5）虐待防止のための対策を検討する虐待防止委員会の設置及び委員会での検討結果についての従業者への周知徹底

2 事業所は、サービスの提供中に、当該事業所職員又は養護者（利用者等の家族等障害者を現に養護する者）による虐待を受けたと思われる利用者等を発見した場合は、速やかにこれを市町村に通報するものとする。

（事業所の名称等）

第4条 事業を行う事業所の名称及び所在地は、次のとおりとする。

- （1）名称 「指定訪問介護事業所 白水長久苑」
- （2）所在地 大分県大分市大字横尾字大原1897番地2

（従業者の職種、員数及び職務の内容）

第5条 事業所における従業者の職種、員数及び職務の内容は、次のとおりとする。

- （1）管理者 1名（兼務とする）

管理者は、従業者及び業務の管理を一元的に行うとともに、事業所の職員に対し法令等を遵守させる

ため必要な指揮命令を行う。

- (2) サービス提供責任者 常勤職員 2名以上
サービス提供責任者は、事業所に対する移動支援の利用の申込みにかかる調整を行ない、移動支援に係るサービス提供計画を作成し、利用者及びその家族にその内容を利用者及びその同居家族に説明し、交付する。サービス提供計画作成後においても、サービスの実施状況の把握を行い、必要に応じて当該計画の変更を行う。
また、従業者に対する技術指導等のサービスの内容の管理等を行う。
- (3) 従業者 7名（常勤職員 1名、非常勤職員 6名）
従業者は、移動支援に係るサービス計画に基づき移動支援の提供に当たる。

(営業日及び営業時間)

第6条 事業所の営業日及び営業時間は、次のとおりとする。

- (1) 営業日 月曜日～土曜日
ただし、12月29日～1月3日は除く。
- (2) 営業時間 午前8時30分～午後5時30分
- (3) サービス提供日 日曜日～土曜日
- (4) サービス提供時間 午前7時～午後10時
- (5) 上記の営業日、営業時間の他、電話等により24時間連絡が可能な体制とする。

(主たる対象者)

第7条 事業所において移動支援を提供する主たる対象者は、次のとおりとする。

- (1) 身体障害者（18歳未満の者を除く）
- (2) 精神障害者（18歳未満の者を含む）

(移動支援の内容)

第8条 事業所で行う移動支援の内容は、次のとおりとする。

- (1) 移動支援計画の作成・交付
- (2) 外出の準備に伴う支援（整容、手荷物準備等）
- (3) 外出時における移動の介護
- (4) 外出時の利用者の健康面の管理
- (5) 外出中及びその前後における他者とのコミュニケーションに係る支援等
- (6) 外出から帰宅した直後の支援（荷物整理等）
- (7) 日々の支援の内容を記録
- (8) 前各号に附帯するその他必要な介護、相談、助言

(利用者から受領する費用の額)

第9条 移動支援を提供した場合の利用料の額は、サービスに要した費用の1割とする。ただし、利用者の受給者証に記載された月額上限額の範囲内とする。

- 2 次条に定める通常の事業の実施地域の範囲を超えて行う事業に要する交通費は、公共交通機関又はタクシーを利用した場合は、その実費を利用者から徴収する。
- 3 前各項の費用の支払を受ける場合は、利用者に対して事前に説明をした上で、利用者の同意を受けることとする。
- 4 第1項から第2項までの費用の支払いを受けた場合は、当該費用に係る領収書を利用者に対して交付する。

(法定代理受領通知)

第10条 大分市から移動支援費を代理受領した際には、利用者（障害児の場合はその保護者）に対し、当該利用者に係る移動支援費の額を通知する。

(通常の事業の実施地域)

第11条 通常の事業の実施地域は、大分市全域とする。

(緊急時における対応方法)

第13条 職員は、現に移動支援の提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治医への連絡を行う等の必要な措置を講ずるとともに、管理者に報告する。主治医への連絡等が困難な場合には、医療機関への緊急搬送等の必要な措置を講ずるものとする。

2 利用者に対する移動支援の提供により事故が発生した場合は、大分市や、当該利用者の家族等に連絡を行うとともに、必要な措置を講ずるものとする。

(苦情解決)

第14条 提供した移動支援に関する利用者等からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置するものとする。

2 提供したサービスに関し、大分市が行う文書その他の物件の提出もしくは提示の求め又は大分市の職員からの質問もしくは照会に応じ、利用者からの苦情に関して大分市が行う調査に協力するとともに、大分市からの指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。

3 社会福祉法（昭和26年法律第45号）第83条に規定する運営適正化委員会が同法第85条の規定により行う調査又は斡旋にできる限り協力するものとする。

(その他運営に関する重要事項)

第15条 事業所は、利用者等に対して適切な移動支援を提供するため、従業者の勤務体制を整備するとともに、従業者の資質の向上を図るため、研修の機会を次のとおり設けるものとする。

(1) 採用時研修 採用後1ヶ月以内

(2) 継続研修 年1回

2 従業者は、業務上知り得た利用者又はその家族の情報を保持する。

3 職員は、業務上知り得た利用者又はその家族の情報を保持するために、職員でなくなった後もこれらの秘密を保持するべき旨を、従業者との雇用契約や労働条件通知書の内容に含むものとする。

4 事業者が得た利用者及びその家族の個人情報については、事業者での移動支援サービス提供以外の目的では原則的に利用しないものとし、やむを得ない理由等により、外部への情報提供を行う際には、あらかじめ文書により利用者（又はその代理人）及びその家族の了解を得るものとする。

5 事業所は、職員、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備するとともに、当該記録をサービス提供の日から5年間保存しなければならない。

6 会計区分について、移動支援事業の会計とその他の事業の会計とを明確に区分するものとする。

7 この規程に定める事項の他、運営に関する重要事項は社会福祉法人と事業所の管理者との協議に基づいて定めるものとする。

附 則

この規程は、平成25年11月1日から施行する。

この規程は、平成27年11月1日から施行する。

この規程は、平成28年5月1日から施行する。

この規程は、平成30年6月1日から施行する。

この規程は、令和4年4月1日から施行する。